

令和6年度第11回朝来市教育委員会 定例会議録

1 日 時 令和7年2月21日(金)

開会 午前10時00分 閉会 午前11時22分

2 開会宣言

3 会議録署名委員の指名 (能見委員) (青田委員)

4 会議録の承認

令和6年度第10回会議録署名委員 (高内委員) (能見委員)

5 教育長報告

6 議事

議案第2号 第4期朝来市教育振興基本計画『あさご夢・学びプラン』について

7 報告事項

(1) 令和7年度指導の重点(案)について

(2) 令和6年度全国学力・学習状況調査について

(3) 令和6年度卒業式出席者について

(4) 令和7年度入学式出席者について

(5) 令和7年度教職員辞令交付式について

(6) 教育委員会行事予定について

(7) 次回 第12回教育委員会の日程について

日時：令和7年3月19日（水）午前10時00分

場所：朝来市学校給食センター

8 閉会

9 出席委員 教 育 長 小倉畑 祐貴

教育長職務代理者 青田 勉

委 員 高内 祥子

委 員 能見 愛子

10 出席職員 教育部長 田中 勉

文化財課長 中島 雄二

学校給食センター所長 藤本 宏子

学校教育課参事 福田 秀則

学校教育課主査 片岡 修

朝来市教育委員会会議録

令和6年度第11回定例委員会（令和7年2月21日）

開会 午前10時00分

○ 小倉畑教育長

皆さん、おはようございます。ただいまから、令和6年度第11回朝来市教育委員会定例会を開会いたします。

本日は、3名の委員の出席ですので、会議は成立いたします。

本日の会議に出席する職員は、田中教育部長、中島文化財課長、藤本学校給食センター所長、福田学校教育課参事、片岡学校教育課主査の5名でございます。

次に、次第の3「会議録署名委員の指名」を行います。

会議録署名委員には、能見委員、青田委員をお願いいたします。

次に、次第4「会議録の承認」に移ります。

令和7年1月20日に開催しました、令和6年度第10回朝来市教育委員会定例会の会議録は、委員の皆様事前に配付しておりますが、何かお気づきの点はございませんか。

特に御意見がないようですので、前回の会議録は原案のとおり承認することに御異議ありませんか。

（異議なしの声あり）

○ 小倉畑教育長

第10回定例会の署名を、高内委員、能見委員をお願いいたします。

（会議録署名）

○ 小倉畑教育長

ありがとうございました。

次に、次第5に移ります。「教育長報告」です。

事務局から報告いたします。

○ 福田参事

資料説明

○ 小倉畑教育長

報告が終わりました。何か御質問はございませんか。

ないようですので、教育長報告を終わります。

続きまして、議事に入ります。

議案第2号 第4期朝来市教育振興基本計画『あさご夢・学びプラン』について、学校教

育課から説明いたします。

○ 福田参事

それでは、議案第2号について、御説明いたします。

第4期朝来市教育振興基本計画策定につきましては、懇話会を4回開催しております。それをまとめ上げました計画案をお手元にお届けしております。

パブリックコメントを令和6年12月24日から令和7年1月22日までの1か月間実施し、御意見をいただきました。今回1名の方から御意見をいただいております。

御紹介いたしますと、「学校運営、清掃指導、家庭科の調理実習やミシンの実習等に地域住民によるボランティアを市の制度として導入することを提案する。ただし、給食の配膳ボランティアについては、市で予算化をするべきである」という御意見をいただいております。

これに対しまして、御要望いただいているものに関しましては、スクールサポートスタッフ制度があるとともに、御提案いただいている市民のボランティアとしての学校経営への参画については、学校運営協議会で地域住民の方に学校教育活動への積極的な参画をお願いしているところです。

これについては、標題といたしました「ふるさと朝来で学ぶ 未来を創る人づくり」、副題の「豊かな心を育成する地域総ぐるみの教育の推進」、中でもこの地域総ぐるみという言葉が、市民から求められたものであることを、実感する良い機会となりました。

それでは、資料を御覧ください。目次にありますように4部構成としております。今回は第3期の計画の振り返りを掲載することで、第4期の方向性を御理解いただける構成としております。令和2年度から6年度までのデータを取っており、多くが全国学力・学習状況調査のデータとなっております。途中から、質問の中にその質問項目自体がなくなってしまうて調査ができないというようなものがあり、そこは棒線で表示させていただいております。あと、出欠日数やいじめの件数は3月の末まで統計ができないことから、令和6年度は棒線で示しています。

策定懇話会の中で「令和6年度で既に目標値をクリアしている数字が載せてあるが、令和11年の目標値が令和6年度の数値よりも低いのはおかしいんじゃないか」という御指摘をいただきました。これは市の総合計画が策定された令和2年時点の令和11年度の目標設定であることから、途中変更ができず、このような表記となったことを説明させていただきました。

また、第2部を御覧ください。ここでは国や県の教育をめぐる現状と朝来市の現状を、グラフ等を使って示しています。カラーであれば非常に見やすいのですが、モノクロだとこのようになってしまいます。ホームページ等に掲載させていただくとともに、業者が発行する

ものはカラーになりますから、もう少し見やすい状態でお届けできると考えております。

第3部、朝来市の教育がめざす姿、これが第4期計画の中心となってきます。これからの5年間で、本市の教育がめざす方向性を細かく示したものです。あくまで理念ですから、それぞれの事業に対してこんなことをしますという細かいことは書いておりませんが、方向性については、具体性を持ったものが示せていると考えております。

朝来市の教育施策を第3部、第4部と継続した形で掲載しております。あと、市民の方がなじみのない教育用語が出てくることから、資料編で用語解説をしております。

なお、表紙は竹田城の写真とちゃすりんで構成された表紙となっておりますが、地域総ぐるみということ、イラストで計画に対し、柔らかなイメージをもっていただきたいという思いで、このような表紙にしております。地域総ぐるみですから、小さいお子さんから経験豊かな方まで全ての世代を掲載しております。また、多世代交流しているような場面というオーダーが反映された表紙となっております。こちらにつきましても御意見いただけたらと思います。

説明につきましては、以上でございます。

○ 小倉畑教育長

説明が終わりました。何か御質問はございませんか。

○ 委員

これだけ分厚い冊子で非常に教育は多方面にわたるんだなという、いろんな視点で切り込んでいかなければいけないというような時代になってきていると思います。だんだん切り込み口が増えていっているような状況であると思うんですけれども、ただ、5年間の中で1年1年の段階で特に学校として、年々この点に力を入れて、それからさらに学校の特色というものが出てきてもいいんではないかなと思います。ただ、渡されるだけでは、ほこりをかぶる可能性が高いので、1年1年これを活用する中で学校としてはこの点とこの点をやっぱり重点的にやって、ほかに波及させていこうというようなものを学校経営の中で考えてもらえたら、そういう指示があればありがたいなと思うんですけど、非常に行き届いた分析でたくさんあり過ぎて、ひょっとしたら5年間でなかなか実行できないんじゃないかなと感じます。それぞれが学校独自のものになっていけばと思います。

○ 福田参事

策定委員会の中でも同様の意見が出まして、非常に分厚いですからどこに重点的に取り組むのか明確にすべきという御意見をいただきました。5年間を見通した本計画を、年度ごとに具体的に示した「指導の重点」を発行しております。

また、学校の独自性を反映した業務改善の視点から、本計画は大きなくくりで示すことに

しております。

教育長がいつも言っているところなのですが、課題からではなく、各校の強みをさらに伸ばして、強みが校内や地域で共有されてから、弱みをクリアしていこうと考えています。

強みや長所に着目してものごとにあたっていこうといったことを校長会等機会があるごとに教育長指示をしておりますことから、各校で判断できると考えております。

以上です。

○ 小倉畑教育長

ほかに御質問等はございませんか。

○ 委員

この間あった成人式の二十歳を祝う会のときに、20歳の若者たち、最初に挨拶された方もそうでしたし、それからケーブルテレビとかで出てきていた子どもたちもすごくふるさとのこと、朝来のこととかというのを口にしていく子が多かったので、それに関してはふるさと朝来ということが彼らの中にはすごく根づいているんだなという感覚を覚えたんですね。それはすごくいいことだなと、今までのいろんなことがこういうふうにならなくなって出てくるなと感じたんですけど、それがこのふるさと朝来に対してがだんだん下がってきていましたよね。

もしかしてピークが来ていて、そこから後は下がってきているんじゃないかなという感覚があって、それがまたどういうふうにしたら元に戻っていくのか、でないと朝来に帰ってくる人たちがどんどん少なくなってしまう、魅力がなくて帰っては来ないというふうになってしまうんじゃないかなと感じるのが一点と、それからここで必ず出てくるんです。ふるさと朝来を愛し、という朝来市のことですよね。ところが各小学校中学校がやっていることは、ふるさとの糸井を愛し、大蔵を愛し、生野を愛しという、ものすごくピンポイントの部分、自分たちが住んでいる場所だけのことであって、ふるさと朝来を全体的に捉えている雰囲気はすごく少ないと思うんです。そうだったら、それぞれの学校がそれぞれの地域のことをやっていることを、横のつながりみたいなものはあるのか、ないのかというのが見えてこない。生野の子たちが生野のいろんなことをやっているのをプレゼンして、ほかの小学校とかにもいっぱいその魅力を伝えとか、一緒に勉強するとかというような横のつながりとかが出てきたら、すごくいいんじゃないかなと思うんですね。もう朝来市となってから結構な年数がたっているんですけど、どうしても地域性というか、町で考えてしまっているというところが大きいので、いまだに町単位でしか動いていない部分もたくさんあると思うんですけど、やっぱり朝来市として考えていかないと、これから何か乗り切っていけないんじゃないかなと感じるので、せっかくこれだけの各小学校中学校が出しているふるさとのことをもっ

と全面的にみんなに知らせるというようなことができれば素敵かなと思います。

○ 福田参事

まず一点目の子どもたちのふるさと朝来に対する意識調査の数が減っている点ですが、これは体験活動の不足によるものと分析しております。第3期の5年間は、コロナ禍で特色ある学校づくり事業が実施できませんでした。特色ある学校づくり事業は体験活動に重点をおいて実施しておりますことから、ふるさと愛の醸成には体験活動が有効だと実感したところでは。5年度から体験活動が復活してきていますので、これから徐々に数値が回復するのではないかと事務局では考えております。

次に、各校での取組をつないで、朝来市全体で取り組んではどうかというご提案をいただきました。これについては、合同生徒会といって、それぞれの中学校の生徒会長が交流する機会を設定していました。コロナ禍では、オンラインで実施していましたが、日程調整が難しく、現在実施しておりません。これは、コロナのためにこれまで当たりまえに行ってきた学校教育活動の細かなノウハウが途絶え、一からやり直しというものが多く、多忙になったことが原因と考えています。さらにこれまで以上に ICT に関する業務が新たに増えています。

今回、貴重な御意見をいただいておりますので、オンラインでの実施を今後の宿題として研究し、学校に提案してみたいと考えております。

以上です。

○ 小倉畑教育長

ほかにございますか。

そうしたら、私からも補足させていただきたいと思います。

今お手元にあるものが非常に分厚いですよね。3期のものをさっき福田が持っていましたけど、あれより分厚いです。なぜ分厚いかと言ったら、前計画の振り返りを今回から入れているためです。それから他市町の他の地方公共団体の様子も情報として知りたいという思いも込めまして、コンサルタントに初めて入ってもらったものです。議員の方や市の行政に関心のある方が、いいのができたと言われるのか、ただほこりかぶるだけやのにと言われるのかなどあると思いますが、それも踏まえておいていただいて、活用の方法は先ほど福田が申し上げたようなことですので、そういったこともまたつないでいただければ、認識していただければと思います。

それから、説明の中で参事は質問紙と言ったんですけれども、その経緯を教えてください。昔は質問紙調査と言っていたから彼は質問紙と言ったと思うのですが、ここの表記は全部質問調査となっているんですね。ちょっとその経緯をみんなに言っていただいてもいいですか。

○ 福田参事

今までは、全国学力・学習状況調査は紙媒体で実施していましたが、質問調査についてはタブレットで行うのがメインになってきてまして、この令和7年度はどの学校もタブレットを使ってオンラインで回答する形になります。これを受け、紙を使わないので質問調査という表記となりました。

○ 小倉畑教育長

片仮名で言うと CBT というんですね。Computer Based Testing の略です。前は PBT、Paper Based Testing ということで、そんな言葉もあるということをお願いしたいと思います。

最後に、サブテーマで地域総ぐるみの教育の推進ということで、そういう言葉を挙げてもらっています。教育振興基本計画をつくるのは、教育基本法が基ですね。第17条の第1項に国が教育振興基本計画をつくります。第2項に地方公共団体は、努力目標としてつくりますよということになっていて、私の認識が間違っていなかったら、第1期、今は国も第4期ですけども、国も第1期の頃から地域総ぐるみというか、そういった理念でつくっています。朝来市もそれに準じてやっているんで、それを発信してきたつもりなんですけれども、やはりなかなか浸透しにくい部分もあると感じています。それに伴って社会がもう大きく変わってきてまして、一つの校区を捉えると、世帯数だけで比較すると、子供がいる世帯は、校区全体の世帯数の10分の1以下なんです。それを見越して国は早くからそれを投げかけているんだと思うんですけども、もうそれをわざわざ隠しておくんじゃなくて表に出さないと分かってもらえないということかなと、そんな気持ちも込めてこの言葉が前に出ているということです。しかし、第4期で初めてかと言えば、理念としては昔からあったと思うんです。その認識も共有できたかなと思っておりますので、それも含めて知っておいていただいて、原案のとおり御承認いただくということでよろしいでしょうか。

よろしく願いいたします。

それでは、本日の議事が終わりましたので、続いて報告事項に入ります。

報告（1）令和7年度指導の重点（案）について、学校教育課から報告いたします。

○ 福田参事

先ほど御承認いただいた教育振興基本計画、これを受けて作成していくのが指導の重点ということになります。まだ基本計画が最終段階に入っているところですので、指導の重点はまだ完成しておりませんが、一覧表を載せております。

まず一番左に、第4期教育振興基本計画を記載し、これを受けて今年度朝来市はこういうことに取り組んでいきますということを項目ごとに示しております。内容は大きく変わるものではありませんが、施策の重点項目④グローバル化に対応する国際教育の教化、英語力学

習アプリの活用による予習型家庭学習に新たに取り組んでまいります。なお、新規事業は【新】を入れさせていただいております。

新規事業を3つ、精選して入れております。英語力学習アプリについては、発音など音声について AI が評価してくれるつくりになっています。これを家庭におけるタブレットを使った予習で活用したいと考えております。以前お伝えいたしましたが、朝来市は ALT の質、配置数ともに充実しておりますので、ALT との英語による会話を不安なく充実したものとなるよう、予習に重点を置いております。また、予習することで、今日何を勉強するのが明確になり、主体的な学びにつながっていくと考え、市内4中学校に配置いたします。

次に、③家庭や地域と連携した、いじめ等問題行動・不登校への対応です。児童生徒の内面理解を図る教育相談等の推進、関係機関との連携「生徒指導研修会」の開催を【新】でつけております。

子どもたちの心の問題が複雑化、低年齢化していることを危惧しております。中でも低年齢化を大変心配しております。不登校に関しましては、小学校は本市に限らず全国的にその数が激増しています。もちろん本市も小学校がかなり増えています。中学校はほぼ横ばいです。今まで以上に心に寄り添う生徒指導というのを勉強していく必要があるということで、新規事業としております。

最後4番の部活動改革の推進については、この項目自体を新たに付け加えております。これはもう何度も御説明させていただいているとおりですので、これを指導の重点に明記して学校教育課だけで決めるのではなくていろんな課と協力し、市民の方の御意見をいただきながらあり方検討委員会を中心に部活動のよりよい方向を考えていく、そういった会を進めていくという思いから新たな項目としております。

以上3点が変更点というところです。以上です。

○ 小倉畑教育長

報告が終わりました。何か御質問はありませんか。

では次に、報告（2）令和6年度全国学力・学習状況調査について、学校教育課から報告をいたします。

○ 福田参事

別紙資料の2ページから、全国学力・学習状況調査の今年度の分析を挙げさせていただいております。3ページを御覧ください。

定着傾向がみられる資質・能力の3番目です。資料を活用して、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができます。これは学校訪問で教育委員の方にも見ていただいて共感いただけたと思います。小学校はタブレット端末の活用が浸透してきております。資料

の取扱についてはタブレットを使うことが有効ですから、それが少しずつ目に見える形で出てきたなと喜んでおります。

ただ、課題があると考えられる資質・能力の下のところ、「読むこと」の設問において無回答率が高いことが課題の一つです。これにつきましては、先生方の分析力が素晴らしいと思っております、やる気がないから無回答なんだと安易に決めつけるのではなく、問われていることが分からないことが原因ではないかと推測しています。と申しますのも、全国学力学習状況調査は言い回しがちょっと回りくどいというか、何を問われているかというのを理解しないと解けないという出題があります。やる気がないんじゃないくて、出題の意図が分かっていないことが判明いたしましたので、「よむ YOMU ワークシート」を導入することで、読解力の育成に努めております。学校の中でも小学校（国語）総括のところではありますが、物語文の設定を正しく読み取っていく活動を充実させるために、児童生徒が、自分の読み取っていることが合っているかどうかをアウトプットして確認できるようにすることで、主体的・対話的で深い学びを実現し、僕はこう思った、こう聞き取ったということを出す場面を多く設定することが大事ですということを分析委員会で確認していただいております。学校訪問の際にそういった場面が設定されているかというのを御覧いただければと思います。

この課題がさらに顕著なのが4ページの算数のところです。課題があると考えられる資質・能力、1番、計算の仕方を考察し、次です。求め方と答えを式や言葉を用いて記述することに課題があります。解き方は分かるのですが、どうやって解いたかということを説明するのが難しい。問題の中にそれがあるんですね。どうやってこの答えに行き着きましたかということを書かないといけない。書き方を覚えるのではなく、どう説明したらいいかを授業の中で常に「自分はこう考えている」と表出できる場面が設定されているか。

そして、小学校（算数）の総括です。1番、「授業づくりのユニバーサルデザイン化」の促進の4行目です。そのため、自分の考えを整理するための十分な時間の確保が挙げられています。じっくり考えるための時間を確保するために何が必要かといえ、先生の発言を減らせば、時間を確保できるのではないかとことを分析委員会の中で検討していただいております。

続いて、5ページです。今度は中学校です。課題があると考えられる資質・能力、2番、話し合いの話題や展開を考えながら、他者の発言と自分の考えを結びつけて、うまくまとめていく。ことが課題となっています。今までの我々が受けてきた授業は、一問一答形式だったのですが、子どもたちが自分たちの発言をつないでいく場面を設定することが大事だということがここで分かってきます。

続いて、中学校（国語）総括です。自分の考えを人とつないでいくときに、有効なのがタ

ブレット端末です。1 番、「授業づくりのユニバーサルデザイン化」の促進の 4 行目、思考ツールや ICT 機器を活用して視覚化。また、自分の思いや考えを最も適切に表現できる手法を選択する授業を中学校でもぜひ普及させたいと考えております。

続いて 6 番、中学校数学です。この課題があると考えられる資質・能力を育成するための 1 から 4 が授業の中で設定されているかどうか、これがポイントになります。目的に応じて式を変形し、その意味を読み取って事柄が成り立つ理由を説明する。今までの公式に当てはめて暗記で対応できるような問題はほとんどありません。複数の集団のデータを分析したものから傾向を比較して読み取り、判断の理由を答える。覚えたことを再生することでは対応できない。3 番、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する。筋道を立てて考え、証明すること。この証明も説明が必要となります。こういった子どもたちが発信していく場面というのが、中学校数学で強く求められます。

ですから、中学校（数学）総括の 1 番、自分の言葉で説明する。今までは授業づくりの UD 化を前面に出していたのですが、中学校数学に関しては、自分の言葉で説明することを一番最初に出した理由です。

そして全般的なものを 7 ページ、今後に向けて、主体的・対話的で深い学びの実現につなげていきますということを書かせていただいております。

続いて、8 ページです。これは質問調査、生活に関することを中心に質問されているのですが、本市に関しましては、まず基本的生活習慣がおおむね身についていて、これはもう御家庭や地域の御協力があつてのことですから、地域に育てられている朝来市の子どもたちなんだなということを実感しております。

なおかつ中学校では、地域・社会や人の役に立ちたいと思う生徒が多いです。これもふるさと愛が育ってきていることが具現化されたものかなと考えております。

今までの取組だけでなく、新しい取組もなされているなど感じるのが、定着を維持するための中学校の取組です。道徳科の授業や生徒会・学級での討議、特に生徒会活動が充実していると感じております。

9 ページ、課題があると考えられる生活習慣や自己意識の中で一番大きいのが、小学校、ゲームや SNS・テレビ視聴の時間に対して、家庭での学習時間が少ない。宿題を多くということが保護者の方からの要望として多く寄せられると聞いていますが、宿題をやっていないことが原因で登校できないという子どももいると聞いております。

そして、少し残念というか、寂しいなと思うのが将来の夢や目標を持っている生徒の割合が少ないことです。将来の目標と聞くと我々は就職をイメージしてしまうのですが、こういう人でありたいやこんな生き方をしたいということをイメージしてほしいと思います。

課題を改善するための取組ということで、自分の考えと友達のことを比較・共有、いろんな方と接する機会を設けたいということと、あとは保護者の方の積極的な参画をお願いしていくことが学校として考えている、よりよい生活していくためにというところの視点で分析委員会が出していただいているものでございます。

以上でございます。

○ 小倉畑教育長

報告が終わりました。何か御質問はございませんか。

○ 委員

もう 17 年、それで分析してもらっているんだけど、各校によって取組は違うと思うんですけども、課題としてこういうことがあったから今年これに重点を入れて力を入れてやって、その結果現状はなかなか変わらないとか、そういう項目もあってもいいんじゃないかなと思う。ただ、これは課題や現状を質問紙というのか、特に学習なんですけれども、質問の分析をして、その中でできていること、あるいは課題として挙げていること、今後こう取り組んでいく。単年度というか、4 月にあったやつの分析じゃなくて、4 月にあって分析したんだったら、当然今度は分析を踏まえてこれに取り組もうという狙いがあるはずですよ、各校の。だから、そのことを受けてやったんだけど、なかなかうまくいかないとか、あるいは成果が上がらないとか、あるいは少し改善が見られたとか、そういう視点というものも分析の中に入ってもいいんじゃないかなと。各校によって取組が違うのでなかなか難しいんですけども。

多分、今 5 年生あるいは中学校 2 年生が今度は 4 月にテストを受けるわけですね。だからそれも 1 年生 2 年生という過程があって今があって 6 年のときに、あるいは 3 年のときにテストというか、調査があるわけなので、そこら辺のどうこの力を育てていこうかというのも今度は教材研究にもつながっていくんじゃないかなと。あるいはこういう子供を育てたいというものが明確になればなるほど、教材をそれぞれの授業の進め方というものにも影響してくるんじゃないかなと思いますので、だからちょっとそういう部分も少し反映させてもらえたらと思ったりします。意見というかそんなんですけど。

○ 福田参事

ありがとうございます。これが一番の課題でして、本調査の結果は夏休み明けに来ます。分析結果を生かした授業改善が軌道に乗るころに卒業してしまう。小 1 からの積み上げを見ることができたら、一番いいのですが、分析結果が各校の全体的な課題として授業改善に取り組んでいるというのが現状でございます。今、委員からのご意見を今後に向けて反映させられればと考えております。

以上です。

○ 小倉畑教育長

関連してとか、そのほかにございませんでしょうか。

○ 委員

これを見ながら、あれと思ったことがあって、携帯がいつから持つようになったんだろうかということを考えたら、調べてみたら 1987 年に開始されてからポケベルの時代があって、それで 2000 年から写メとかそういう携帯、スマホになったのが 2010 年、今の小学生の親というのが、そこにどっぷりはまっているんじゃないかなと。携帯を持ち出した頃、みんなが持ち出した頃に生まれて育ってきて、今子どもを育てているという状態なんじゃないかなと思ったら、家庭での学習時間が少ないとかという問題よりも、家庭で親子で話している時間が多分少ないんじゃないか。テレビとかゲームにはまっているのは子どもだけじゃなくて、大人がどっぷりそこにはまり込んでいるんじゃないかなと。それを見て子どもたちはそれをして当たり前になってくるしという、100%全部が全部そうではないにしても、そういう傾向が強いんじゃないかなと思います。買物をしていても子どもの様子を見ていない、携帯片手にずっと売場を動いているというお母さんとかお父さんとかというのが多いですね。だから、スマホがもう離せなくなっている世代が今の小学生とか中学生の親の世代なんじゃないかなと。

そうするとここもそうですけれども、その前の調査でもそうでしたけれども、本を読まない活字離れとかというの、家の中で本を読む人というのを見たことがないというような形になる。そうやってきたら、もう学校でしかそれができないような状況かなと、家にはそれが望めないの学校で本を読みましよう、学校でゲームとかそういったところから全部離れての授業を行いましようみたいな感じのことになってくるというか、そうせざるを得ないのかなと考えてしまったんですけれども。

だから、ここで家庭でのことを考えていましようとか、家庭にそれを投げかけるということがあるんですけど、それが実際に役に立つのかどうなのかというのは難しいんじゃないかなと感じました。

○ 福田参事

ありがとうございます。朝来中学校は今年度、読書活動の充実の研究指定校を県から受けておりまして、まさに活字離れ、本離れが課題になっていて、今回朝来中学校に頑張っていたのは、家庭で本を読む場面を設定し、家族みんなで本を読んでもらうという取組をしております。そうすることで、スマホを触らないという時間を設定するのに本はいかがでしょう、家族みんなで読みましようという取組となるよう、保護者の方からもお薦めの本

を御紹介いただいたというような状況です。

積極的に参画いただける御家庭とそうでない御家庭があるのは事実です。ですが、朝来中の校長は難しいからやらないとか言わないじゃなくて、また今日1人増えた、0.5成長したとか、本が面白いと言ってくれる子が増えたというふうに考えるようにしていると言っておりました。この研究指定は本年度で終了となりますが、この取組を継続していきたいとのことでした。読書をきっかけに家庭の中で会話が増えれば、ぜひ発信していきたいと思っております。

以上です。

○ 小倉畑教育長

関連してとか、ほかにありますか。

委員がさっきおっしゃったことは質問調査の項目のみならず、学習のほうもという話ですかね。

○ 委員

はい。17年の多分学校によってデータを残しておると思う。多分同じような傾向でずっと来ていると思うんです。毎年毎年改善されずに課題だけは同じことがずっと。では、どう変えていくのかというあたりをもう少ししっかりと研究しなかったら、これ多分また同じような分析が来年も出てくるんじゃないかなと。少しでも視点を立てて、それが改善できたのか、あるいは改善できないとか、現状維持であるとか、そういうようなことを前年度と比較するとか、過去と比較する中でそういうデータを基にして積み上げていったら、もう少し課題が明確になるんじゃないかなと。学習のやり方というのか、授業の仕方も明確にさらにならないかなと。

これ自体が1年に1回の調査ですので、どれだけ重要視するかというあたりも一つの視点なんですけどね。授業の改善になったらもうけもんやなというぐらいで、これが全てじゃないので、ちょっとこういう視点も取り入れてみようかというあたりが、学校の中でできてき出したらまた変わるんじゃないかなと思ったりします。

○ 小倉畑教育長

ありがとうございます。大事なキーワードを言っていて、2ページに書いてあるように、2段落目です。この調査によって測定できるのは学力の一部分であるというふうなことがありますし、でもそれを最大限に活用すべきじゃないかという御意見をいただいているものだと思います。

私もこの立場で校長先生方に言うのは、この分析や学校での分析を活用してくださいということを言うしかできないんですけれども、そういったことを投げかけているところです。

でも、委員がおっしゃる危惧することが7ページの本文の3行目から4行目あたりに、課題とされる資質・能力については、その多くがここ数年同じであり、これまで以上の授業改善に関する取組が必要な状況が見受けられますと記述があるように、今、委員がおっしゃったことがここにも反映されているかなというところだと私は読み取っています。生野小学校も読書の日なんかはありますか。

○ 委員

生野小学校は校長先生がものすごく本を推されているので、読書、本を読むこと。回覧板みたいに本が回ってきて、親が感想を書く、子どもが書くんじゃないくて、一緒に読んで保護者が書く。一緒に読みましたよと、こういう内容でしたと、よかったですというのを書いたりとか。

○ 小倉畑教育長

なるほど。それは月の第何水曜日とか決まっているんじゃないくて。

○ 委員

子どもたちで自分が読み終わったら次の人へという感じで、班で回っているみたいで。娘から本の話が増えました。

○ 小倉畑教育長

そういう投げかけをされているんだろうし、ノーテレビデーとかノーメディアデーとか読書の日とかという取組もあったり、今、参事が報告したような朝来中学校の県の指定を受けての取組なんかもあって、それぞれ取り組んでいただいているというところですよ。

委員がおっしゃったように、家庭の教育力にはなかなか限界があるのではということも、先日参事が校長ヒアリングでもそのことを校長と協議している場面がありました。だからこそ直接すぐにペンキで色を変えるみたいに変わるわけじゃないと思うけど、その家庭を支えるという意味でも、地域総ぐるみであったり学校運営協議会を活用していくというところが、うちの市でやっている、例えば全国的にもやっているような、そこなんだと思っているところですので、その辺関連づけながら、また教育活動をさせていただかないといけないと思っておるところですよ。

まとめるつもりは全然ありませんけれども、皆さんのやり取り聞いてそんな気持ちでみんなと共有して、また地域にも発信していただけたらなという思いで話してもらいました。

それでは、次の報告事項に移ってよろしいでしょうか。ありがとうございます。

次に報告（3）令和6年度卒業式出席者について、学校教育課から報告いたします。

○ 福田参事

資料は10ページになります。市長部局の名前はまだ間に合っておりませんが、確定次第ま

た御連絡させていただこうかと思えます。告辞は現在調整中ですので、完成したものをまたお届けできるかなと考えております。

以上です。

○ 小倉畑教育長

何か御質問はございませんか。

次、報告（４）に移らせていただきます。報告（４）令和７年度入学式出席者について、学校教育課から報告いたします。

○ 福田参事

入学式は11ページに記載しております。教育委員の方は確定ですので、お名前を入れさせていただいております。事務局の方は人事異動等もございますので、現時点では空欄とさせていただきました。記載の役職を持った者が参加させていただく予定にしております。時間も学校から連絡が来ておりませんので、昨年度のことを記載しております。生野小学校は時間が他校と違いますが、来年度どうなるか、これも確定次第で御連絡いたします。日にちは4月9日、例年であれば始業式7日、8日入学式なのですが、7年度につきましては9日ということで1日空けさせていただいておりますので、そこだけお気をつけいただけたらと考えております。

以上でございます。

○ 小倉畑教育長

報告が終わりました。何か御質問はございますか。

ないようですので、次に報告（５）令和７年度教職員辞令交付式について、学校教育課から報告いたします。

○ 福田参事

令和６年度末、令和７年度初めということでスケジュールを出させていただいております。3月31日の分につきましては県から連絡が来ましたので、この時間で動いてまいります。4月1日ですけれども、教育委員の皆様にご参加いただくのは11時15分からの県費負担教職員辞令交付式ということになります。そこにごございますように、県費の負担教職員で異動した者が参加いたしますが、臨時講師が参加するかどうかというのを今学校と協議しているところがございますので、ここに臨時講師というのが対象者で入っておりますが、変更する可能性があります。あとは時間等に関しましては例年どおり進めるということをお願いしておりますので、このような流れで進めさせていただきます。

以上です。

○ 小倉畑教育長

報告が終わりました。何か御質問はございませんか。

○ 委員

すみません、これ第1回校長会は我々も参加ですよ。

○ 小倉畑教育長

そうでしたね。

○ 委員

4月10日、第1回校長会、出席ですよ。

○ 福田参事

はい、そうです。

○ 小倉畑教育長

4月10日でよかったですか。

○ 福田参事

はい、10日だと確認できましたので、10日をお願いします。

○ 小倉畑教育長

それではそれも含めて、そのほかございませんか。

ないようですので、続いて報告（6）教育委員会行事予定について、学校教育課から報告いたします。

○ 福田参事

それでは、報告（6）教育委員会行事予定について、説明させていただきます。資料は13ページです。本日から3月末までの予定を記載しております。

2月26日、水曜日、3月議会が始まります。

2月28日、金曜日、八鹿高校、生野高校、和田山高校の卒業式がそれぞれ開催されます。

3月に入りまして、3月2日、日曜日、朝来からの風、朝展2025、表彰式が開催され、青田職務代理者に代理出席していただきます。

3月3日、月曜日、3月議会の2日目となります。

3月4日、火曜日、第11回校長会を実施する予定にしております。

3月5日、水曜日、6日の木曜日、7日の金曜日、この3日間で議会の一般質問が行われます。

3月10日、月曜日、市内中学校の卒業式が開催されます。教育委員の皆様には、教育委員会告辞でお世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

3月13日、木曜日、埋蔵文化財センター運営委員会を開催いたします。

3月14日、金曜日、第一学院高校養父校の卒業式が開催されます。

3月19日、水曜日、第12回の教育委員会を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

3月21日、金曜日、市内小学校の卒業式が開催されます。また、年度末校長会を開催いたします。

3月23日、水曜日、少年少女オーケストラ入団式歓迎演奏会が開催されます。

3月24日、月曜日、市内小中学校で修了式が開催されます。

3月26日、水曜日、3月議会の最終日となっております。

3月31日、月曜日、退職教職員感謝状贈呈式、市職員退職者辞令交付式が開催されることになっております。

以上で、報告（6）教育委員会行事予定についての説明とさせていただきます。

○ 小倉畑教育長

ありがとうございました。報告が終わりました。何か御質問はございませんか。

以上で、本日の報告事項は終わりました。ほかに各課から報告事項はありませんか。

中島課長、お願いします。

○ 中島課長

チラシが直前になると思うんですけども、3月1日、土曜日から埋蔵文化財センターで高札展という展示会をやります。高札といいますのは、江戸時代以降、近世にわたってなんですけれども、町の村とかの辻々にこういう木の板に何をしたらあかんとかいう告示文とかを掲示するものなんですけれども、そういったものを今回市内に残っております資料を展示しまして、高札について皆さんで考えていただくという展示をすることになっておりますので、チラシは直前の配布になるかなと思いますので、また御覧いただけたらと思います。

以上でございます。

○ 小倉畑教育長

ありがとうございました。それでは、なければその他に移りますがよろしいでしょうか。

その他について、事務局から説明いたします。

○ 田中部長

それでは、新年度の予算の概要等につきまして、御説明させていただきたいと思います。

まず、学校教育課の関係でございます。英語教育強化事業でございます。先ほどの参事の説明ともかぶるところが出てきますけれども、御容赦ください。

今年度末をもちまして、英語検定の受講料ですが、その補助金の交付要綱が失効してしまいます。この事業を終了することになりますので、この代替事業といたしまして、新たに英語の授業及びタブレットの持ち帰り等によりまして、予習などの活動に活用する全生徒向

けの英語力学習アプリ、これを導入するためアプリ利用料など 61 万 7,000 円を計上しております。

次に、不登校児童生徒支援員配置事業でございます。この事業は御承知のとおり増加する不登校児童生徒への兵庫県の対策として、令和 6 年度から全県一丸となった兵庫不登校対策プロジェクトの中で学校内の安心できる居場所、いわゆる校内サポートルーム、これの設置に向けました支援に引き続き重点的に取り組むものでございます。令和 7 年度につきましては、中学校 4 校に 4 名、小学校につきましては令和 6 年度は 2 名でしたが、9 校に 5 名、不登校児童生徒支援員を増員配置しまして、個に応じた学習や生活の支援等の充実を図ってまいろうとするものでございます。支援員報酬など 808 万 9,000 円を計上いたしております。

続きまして、小学校及び中学校教育振興事業でございます。今回、第 2 期 GIGA スクール構想に向けまして、まずは前回もありましたが補正予算で市内各校のアクセスポイントを最新の規格のものに現在更新をしているところでございます。児童生徒、教師の使用する端末です。小学校では iPad という端末、中学校では Windows の端末になりますが、児童生徒用、これは予備機を含むんですけれども、教師用も合わせまして、全部で 2,466 台の端末を整備いたしてまいります。この費用 1 億 6,400 万円などを含めまして、合計で 2 億 2,549 万 8,000 円を計上しておるところでございます。

続きまして、文化財の関係で一点申し上げます。天然記念物保護活用事業でございます。これは黒川自然環境基本構想に基づきまして、令和 5 年度に県から譲渡されました黒川自然公園センターを仮称でございますが、朝来市自然環境保護施設としまして豊かで貴重な朝来市の自然環境について PR を行うとともに、基盤となる調査研究、展示施設を整備するものでございまして、その施設整備に係る工事請負費など 2 億 6,600 万円を新たに計上いたしまして、合計予算 2 億 6,781 万 4,000 円の計上を行っておるところでございます。

最後に、給食センターでございます。給食センター運営管理事業でございます。事業費でございますが、前年度と比較しまして、2,538 万 6,000 円の増額となっております。要因としましては、高騰しております光熱費及び材料費等 1,457 万 4,000 円の増額など、合計 2 億 7,586 万 9,000 円を計上いたしておるところでございます。

新年度予算の概要につきましては、簡単ですが以上でございます。

最後に、令和 6 年度予算の一般会計補正予算 9 号につきまして、御説明申し上げます。これは先ほども申し上げましたが、学校給食センターの材料費の高騰によりまして、その予算の不足分に係る予算の専決処分といいまして、補正予算は通常議案として上程してから予算を執行するのが本来ではありますけれども、専決処分ということを行いまして 2 月 17 日付で不足分の 1,230 万円を補正予算として、付けさせていただいたということでございます。

これにつきましては承認案件として、今回の3月議会定例会で審査をいただくということになってございます。

以上、報告させていただきます。

○ 小倉畑教育長

説明がありました。非常にゆっくり説明してくださいと私が言ったんですけども、ゆっくりしていただいても内容は難しいですね。ただ、大きな予算が予定されていること、そういったことを認識いただいたり、また新聞紙上でも給食費のことも出ておりましたね。そんなことで子育て支援の一環として、市の施策があるということで御認識をいただきたいと思います。

御質問はありますか。ありがとうございました。

ほかにその他はありますか。なかったら、ちょっとごめんなさい。冒頭、第4期の教育振興基本計画の中で、これは学校教育課が計画をつくっていますよね。でも、教育を地域総ぐるみと言いながら、役所の中もやはり学校教育課だけではできないことなんです。生涯学習課であったり、人権推進課であったり、そういったところからも、本当に地域総ぐるみをしようと思ったら、役所の中が総ぐるみでないといけないなという思いを持っていますが、しかしながら、計画を立てるのは学校教育課であるということが便宜上そういうふうになっています。それをできるだけ広げて協力体制が取れるようにしていきたいと思いますので、また委員さん方からもお気づきの点がありましたら、忌憚なく御意見をいただきたいなと思っています。

もう一つは情報提供なんですけれども、私、資料を忘れてきた、竹田小学校のホームページに書いてあるかなと思いながらなかったのですが、その項目を押したら国会図書館にその本もあるということで、神戸の方が80年前に竹田で1年間かな、疎開をされていて、竹田の地域に大変お世話になったという思いを持っておられる方がありまして、御高齢の方で70代、80代の方、その方が見えて市で感謝の気持ちを伝えたいからということで、結果的に竹田小学校の学校運営協議会や竹田地域自治協が合同で、今日の2時半頃、2時25分から45分だったかな、それぐらいの間竹田小学校で神戸のそういう方を迎えたりして地域も子どもたちも参加する中で、主催者の方はもうとにかく竹田の地域にお世話になって今があるという思いを持たれています。竹田や朝来町のお寺なんかには疎開をされていて、苦勞話、子どもの作文がこうつづつてある本なんですけれども、そういったことを市長、副市長にもその本を見てもらったりして、今日に至っているということも伝えています。委員さんに今日言って今日というのはなかなか難しいとは思いますが、そういった会があつて今日、竹田で行事があることを知っておいていただいたり、神戸の一部だと思いますけれども、この竹田であ

り、朝来市に感謝をされている方々があるということをちょっとお知りおきいただければなと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、次回の日程について、事務局から説明をお願いします。

○ 福田参事

それでは次回の日程でございますが、3月19日水曜日、午前10時からで場所に気をつけください。朝来市学校給食センター、先日、片岡が御案内させていただいた場所になります。間違われないようにしていただけたらと思います。

以上でございます。

○ 小倉畑教育長

それでは次回のことは今あったとおりです。学校給食センターにお越しください。

以上をもちまして、令和6年度第11回の教育委員会定例会を閉会いたします。

ありがとうございました。

閉会 午前11時22分